

2 研究の実際

研究の実際

イ 小学校自閉症・情緒障害特別支援学級(1年)の取組

自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する小学校1年生の児童に対して、交流学級担任が学習面や生活面における合理的配慮を特別支援学級担任とともに提供した事例である。

対象児童は、国語と算数を特別支援学級で学習し、その他の教科等は交流学級で取り組んでいる。交流学級では、担任の指示だけでは学習内容を理解することが難しく、周りの友達の様子を見ながら学習に参加している。また、友達に自分から関わることが少ない。

そこで、対象児童が交流学級での学習活動に主体的に参加できるように、教室環境を整備したり、学習内容や方法を工夫したりするなどの配慮を行った。

P(決定)シート

意思の表明

本人	・楽しく過ごしたい。
保護者	・交流学級での授業の際に、周りの友達と関わりながら活動してほしい。 ・対象児童が無理をせず、本人のペースで過ごせるようにしてほしい。
引継ぎ等	・幼稚園では、周りの様子を見ながら活動内容を理解して参加している様子が見られた。 ・幼稚園の職員からは、多くの友達と一緒に活動する経験を積むことに対象児童の課題があるという引継ぎがあった。

調 整

実態把握

学習面	・ひらがなの読み書きはおおむねできている。 ・話手を意識し、話の内容に注意を向け続けることが難しいことがある。 ・活動が始まっても、それに気付かないことがある。 ・指示した内容と違うことを行うことがある。 ・担任の話途中まで聞いて、内容を理解する前に活動を行うことがある。
生活面	・周りの様子を見た後に、友達に合わせて活動していることが多い。 ・活動に戸惑い、周りの様子を見渡したり、活動に参加できていなかったりすることが見られる。 ・活動に戸惑っているときは、周りの友達が気遣い手助けをしてくれている。
人との 関わり	・集団の中で周りの様子を見ながら、友達と一緒に過ごすことができる。 ・休み時間は、友達と一緒に過ごすよりも一人で過ごすことが多い。
その他 (生育歴・ 検査等)	・自閉スペクトラム症の診断を受けている。 ・WISC-IIIでは、境界域にある。

検 討

【時 期】 6月下旬 放課後

【参加者】 特別支援学級担任、交流学級担任

【内 容】 交流学級では、担任の指示だけでは学習内容を理解することが難しく、周りの友達の様子を見ながら学習に参加している。また、友達に自分から関わるのが少ない。そのため、対象児童がどんな活動があるのかを正確に聞くことができるようにすることが大切である。

そこで、対象児童が主体的に活動しやすい状況をつくる必要があると考え、以下のような支援について検討した。

- ①座席は、最前列にする。
- ②全体に話を始める前に、個別に言葉を掛ける。
- ③具体物や写真、イラストを用いて、活動の内容を示す。
- ④話した内容を確認し、活動に取り組むようする。

合意形成

【時 期】 7月中旬 保護者面談

【参加者】 保護者、特別支援学級担任、交流学級担任

【内 容】 検討した①～④の合理的配慮の内容を提案し、下記のように決定した。また、次回夏季休業中に見直しをする。

特別支援学級においては、生活の仕方や学習用PCの使い方を学習し、見通しをもった活動ができるような支援を提供する。

決 定

長期目標

- ・活動内容を理解し、主体的に取り組むことができる。

※決定した内容は、個別の教育支援計画及び個別の指導計画、合理的配慮シートに明記します。

①教育内容・教育方法	②支援体制	③施設・設備
<ul style="list-style-type: none"> ・座席は、最前列にする。 ・全体に話を始める前に、個別に言葉を掛ける。 ・具体物や写真、イラストを用いて、活動の内容を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流学級の児童が対象児童と触れ合う活動を設定して、対象児童への理解啓発を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習用PCを用意する。

* <合理的配慮：3観点11項目> * 該当する項目に○を付けて下さい。

①-1 教育内容

- () 学習上又は生活上の困難を改善・克服
- () 学習内容の変更・調整

①-2 教育方法

- () 情報・コミュニケーション及び教材の配慮
- () 学習機会や体験の確保
- () 心理面・健康面の配慮

② 支援体制

- () 専門性のある指導体制の整備
- () 幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解啓発
- () 災害時等の支援体制の整備

③ 施設・設備

- () 校内環境のバリアフリー化
- () 発達、障害の状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備
- () 災害時等への対応に必要な施設・設備

次回の検討予定日（11月）

D(提供)-1シート

長期目標

- ・活動内容を理解し、主体的に取り組むことができる。

決定した合理的配慮

- ・座席は、最前列にする。
- ・全体に話を始める前に、個別に言葉を掛ける。
- ・具体物や写真、イラストを用いて、活動の内容を示す。
- ・交流学級の児童が対象児童と触れ合う活動を設定して、対象児童への理解啓発を進める。
- ・学習用PCを用意する。

実際の指導場面における合理的配慮の提供について

①教育内容・方法

場面	対象児童の目標	手立て
学習面	・学習内容を理解し主体的に参加することができる。	・座席を最前列に配置する。 ・話を始める前に、肩を触り担任の話に意識を向けるよう促す。
生活面 (帰りの時間)	・帰りの会で明日の予定を確認することができる。 ・今日の帰り先を確認することができる。	・話を始める前に、対象児童の肩に触れ、担任の話に意識を向けるように促す。 ・話し終えた後に、話した内容で大切だったことを確認する。 ・一緒に帰る人(放課後デイサービス)を確かめる。
行事等 (運動会)	・応用走のやり方を理解し、完走することができる。	・話を始める前に、名前を呼び、話に意識を向けるよう促す。 ・指導者と一緒に練習をさせ、やり方を説明する。 ・対象児童の側に寄り添い、活動の様子を見守る。

②支援体制

項目	時期	内容
支援体制	5月	・個別の教育支援計画を基に、交流学級担任及び関係職員との共通理解を図る。

③施設・設備

項目	時期	内容
学習用PC の用意	6月	・特別支援学級で活用できる学習用PCを用意する。

合理的配慮の実際

1 合理的配慮の提供場面

生活科「じぶんでできるよ」～ぼくもわたしも家族のひとり お手伝い大作戦を実行しよう！～

2 本時の目標

○朝起きてから寝るまでの自分の生活をイラストや文で表すことができる。

【身近な環境や自分についての気付き】

3 合理的配慮を取り入れた本時の授業について

本時では、児童が自分自身の生活を見つめ直し、自分を支えてくれている家族の存在や働き掛けに気付く中で、家庭の一員として自覚をもちながら生活をしていこうとする意欲を高めることをねらいとしている。そのために、まず自分が日常的に行っている生活を振り返り、自分の生活を時系列で表すことで、自分の生活の実際に気付かせていきたい。

本学級の児童は、毎日の学校生活において身なりが整い、学習用具の準備が十分にできた状態で登校をしている。その様子を問うと、保護者からの声掛けや、一緒に手伝ってもらって身支度等を行っていることに気付いている児童は少なく、むしろ当たり前のことと捉えている。自分の生活のほとんどが周りの家族からの働き掛けでうまくいっていることに気付かせていくことが重要であると考えた。

学級全体の学習の様子では、電子黒板をどの教科でも活用し、話の内容に合わせた視覚的情報を用いている。これにより、教師の指示に注目し、話に耳を傾ける児童が多い。しかし、話言葉だけになると、注意が持続しなかったり、内容を聞き漏らしたりする児童もいる。対象児童についても同様の様子がよく見られた。教師の指示を途中まで聞いて、内容を理解する前に活動を行うため、途中で活動の変更や修正をすることが多く見られた。そのため、対象児童が活動の内容を正しく理解して、活動に取り掛かることができるような配慮を行う必要がある。

指導に当たっては、自分の家庭における一日の生活を具体的に振り返り、家族の誰かの助けがあって成り立っていることに気付かせたい。その際、視覚的な資料（動画、写真、イラスト等）を用いた操作的な活動を取り入れたり、同じ形式のワークシートを用いて、一つ一つの活動に誰が関わっているかを考えたりする。対象児童に対しては、教師の指示や声掛けがしやすい前列に座席を設け、話をする際には、その都度注意が向けられるような関わりをする。また、活動の流れや内容が分かる手順書を準備し、それを参考にして活動に取り組めるようにする。

4 対象児童へ提供する主な合理的配慮

提供する合理的配慮




- ・担任の説明の前には、肩を触ったり、目線を合わせたりして注意を向けることができるようにする。
- ・作業の手順を書いたメモを渡して、活動の手順を確認できるようにする。

5 授業の実際

(◎合理的配慮 ☆ 対象児童を含めた学級全体への配慮)



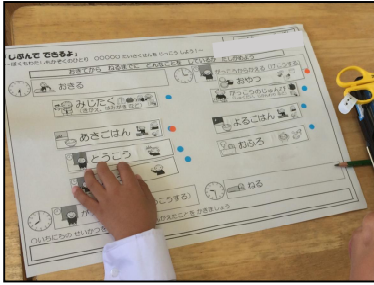
担任

対象児童

学習活動	教師の働き掛け	取組の様子
<p>【授業前】</p>	<p>◎座席は、対象児童に対して関わりやすい前列に設けた。</p>  <p>ここの席は、電子黒板もよく見えるし、先生も近くにいるからいいな。</p>	<p>「Aさん、これから説明をしますよ」と対象児童に直接声を掛けて注目させることで、指示の理解を図るように心掛けています。</p>
<p>1 朝起きてから今までにしたことを想起する。</p> <p>2 めあてを確認する。</p>	<p>・したことと時間の流れが分かるように、時計や活動の様子が描かれたイラストを用いて確認した。</p> 	<p>さりげなく支援ができるので、対象児童も安心して授業を受けることができました。</p>
<p>めあて 朝起きてから ねるまでに どんなことをしているか たしかめよう</p>		
<p>3 一日の中でどんなことをしているか出し合う。</p> <p>①起きてから寝るまでの活動を発表する。</p> <p>②全体で共有する。</p> <p>4 自分の一日の生活の流れをまとめる。</p> <p>①活動カードを時系列になるようワークシートに貼る。</p>	<p>◎説明する前に、対象児童の肩を触り、教師の話への注意を促した。</p> <p>・朝起きてから今までの活動を確認したり、これからの予定を質問したりしながら、様々な活動を引き出した。</p>  <p>・活動を発表するよう促し、発表された活動を表すイラストと文字で表した活動カードを掲示した。</p> <p>・活動カードを使って、自分の生活をワークシートにまとめる活動を黒板に示した。</p> <p>・1枚にまとめた活動カードと切り分けた活動カードを準備した。</p> <p>◎作業の流れや内容を書いた手順書を対象児童に渡した。</p> <p>◎作業の内容が分かる動画を準備した。</p>	<p>話をよく聞き、担任をよく見ていたので、活動の内容が理解できていました。</p> <p>それ、分かった。学校に行く前に着替えたり、歯磨きしたりするよ。</p>

②自分一人でやっている活動を考える。

5 今日の学習を振り返り、次時の活動を知る。

・家族の助けを得ずにできる活動カードには青色シールを貼り、助けてもらっている活動カードには赤色シールを貼るように促した。

・板書を指し示しながら、青色シールが赤色シールになったことを確認した。

・次の学習までに家庭で過ごし方を見直し、自分が行っている活動が、青色シールか赤色シールかを調べてくるよう促した。


学習用PCに書いてある順番の通りにすればいいから、次は「シールを貼る」だね。

電子黒板にワークシートと同じ画像を映して説明しました。何をどうするのか分かりやすかったようです。

活動カードにイラストがあり、自分の活動を振り返る手掛かりとなっていました。


あれ？朝はお母さんに呼ばれて起きたんだっけ…。自分で起きていないのかな。

できることには、青シールを貼るんだね。自分でできているから、青を貼ろう。



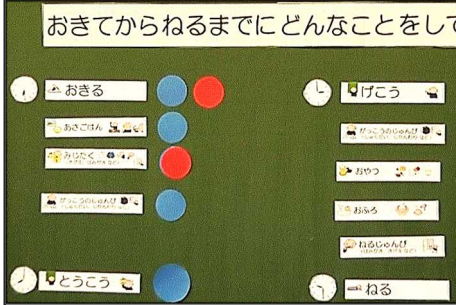
活動カードにイラストがあり、自分の活動を振り返る手掛かりとなっていました。

5 今日の学習を振り返り、次時の活動を知る。



あれ？朝はお母さんに呼ばれて起きたんだっけ…。自分で起きていないのかな。

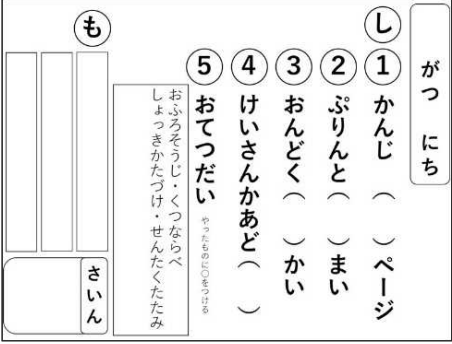
5 今日の学習を振り返り、次時の活動を知る。




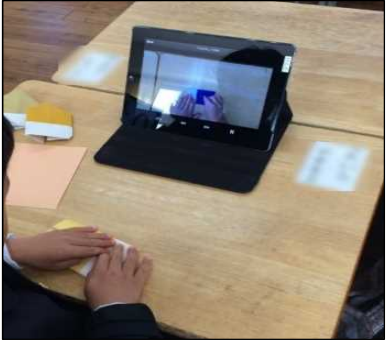
あれ？朝はお母さんに呼ばれて起きたんだっけ…。自分で起きていないのかな。

D(提供)-3シート

合理的配慮の具体例

場面	生活面	帰りの会
合理的配慮の内容 ・明日の連絡を連絡ノートに書く写す際に、個別の連絡シートを使う。		
 <p>【個別の連絡シート】</p>		<p>対象児童は、ひらがなやカタカナの読みはできているが、字形が整わなかったり、書くことに時間が掛かったりしていた。帰りの時間は慌ただしく、周りの友達より帰る時間が遅くなることがあった。</p> <p>そこで、必要な部分だけを連絡シートを記入できるようにした。毎日の帰りの会では、自分で連絡シートを取り出し、連絡帳に貼り、進んで記入し、周りの友達と同じ時間ぐらいで帰りの準備を終えることができるようになった。</p>

場面	生活面	朝の会、帰りの会での帰宅方法の確認
合理的配慮の内容 ・今日の帰宅方法を交流学級担任に伝える。		
 <p>【お迎えカード】</p>		<p>対象児童は、入学当初より放課後デイサービスの利用をしていた。また、それと併せて、祖父母のお迎えや他の児童との下校があり、担任に確認することが多く見られた。</p> <p>そこで、イラストで表されたお迎えカード（放課後デイサービス、祖父母、両親、歩き）を準備した。登校後に、連絡帳で今日の下校を確認し、お迎えカードを机の前面に貼り、示すようにした。対象児童も交流学級担任もお迎えカードを見るだけ確認できるようになり、下校方法に戸惑うことがなくなっていった。</p>

場 面	学習面	図工の時間の活動
<p>合理的配慮の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 動画で折り紙の手順を見て、確認しながらどんぐりの折り紙を作る。 		
 <p>【学習用PCでの手順の提示】</p>		<p>生活科の時間に、「秋のおもちゃまつり」を開くことになった。その際、景品としてどんぐりの折り紙を作るようになったが、折り方を聞いたり本を見たりすることだけでは、折り方が分からないでいた。</p> <p>そこで、一つ一つの折り方に沿って動画で撮影し、学習用PCを使って提示した。動画を見ながら、折り方を一つずつ確認したことで、周りの友達以上の量を折ることができていた。</p>

C(見直し)シート

見直し

検 討

【時 期】 11月

【参加者】 特別支援学級担任、交流学級担任

【内 容】 2学期の特別支援学級での活動の様子や、交流学級での合理的配慮の成果と課題について話し合った。それぞれの学級における様子を確認した上で、3学期に取り組む合理的配慮の検討を行った。

成果と課題

- 交流学級での対象児童の座席を最前列にし、交流学級担任が話をはじめるときには、名前を呼んだり軽く体に触れたりして、交流学級担任に意識を向けさせるようにした。その結果、対象児童は交流学級担任を見て話を聞くことができるようになってきた。
- 学習用PCを用いて作業の手順を示したことで、活動内容が明らかになり自分から活動に取り組もうとする様子が見られた。
- モデルとなる児童を隣の座席になるようにグループ編成をしたことで、対象児童はその児童の様子を見たり、アドバイスを受けてりしながら活動に取り組む姿が見られた。
- 交流学級担任の方を見て話を聞くことができるようになったが、話が長くなると注意が逸れてしまい、十分に内容を理解できない様子が見られた。また、周りの様子が気になり、きよろきよろすることもあった。
- 学習用PC等の視覚的な支援がない場合には、学習内容を理解することが難しいことがあった。

合理的配慮の変更点

これまでの合理的配慮は今後も継続する。以下の2点については、見直した。

- ・視覚的な情報に注意が向きやすくなるように、電子黒板の前に座席を配置する。
- ・特別支援学級では、実際に活動の様子を演示したり学習用PCに保存している動画を見せたりすることで、対象児童は自分から活動に取り組む様子が見られる。そのため、交流学級でも学習内容に応じて学習用PCの活用を図っていく。

合意形成

【時 期】 12月 個人懇談

【参加者】 保護者、特別支援学級担任、交流学級担任

【内 容】 2学期の特別支援学級での活動の様子や交流学級での合理的配慮の成果と課題について話し合った。その後、保護者と2学期の様子について振り返り、3学期に行う合理的配慮の確認を行った。

A(引継ぎ)シート

引継ぎ

【時 期】 4月 職員会議後

【参加者】 (旧・新)特別支援学級担任、(旧)交流学級担任

【方 法】 個別の教育支援計画及び個別の指導計画を基に、下記の引継ぎ内容を含めた情報の確認を行う。また、特別支援学級で活用している教具等を用いて、児童の学習の様子を伝える。

【内 容】 定期的に見直してきた以下の合理的配慮を引継ぎ内容とした。

- ・電子黒板と担任の両方の様子が対象児童からよく見える場所に座席を配置する。
- ・全体に話を始める前に、個別に言葉を掛ける。
- ・具体物や写真、イラストを用いて、活動の内容を示す。
- ・交流学級の児童と対象児童が触合う活動を設定して、対象児童に対する理解を促す。
- ・学習用P Cを必要に応じて交流学級でも活用する。

【時 期】 4月 始業式前

【参加者】 (旧・新)特別支援学級担任、(新)交流学級担任

【方 法】 前年度末の新旧の特別支援学級担任間で引き継いだ内容について、交流学級担任を交えて確認を行う。特に、交流学級での時間割の調整や、交流学級担任との関わり方を中心に話し合う。また、4月末に、特別支援学級担任と交流学級担任で家庭訪問を行い、当面の交流学級での合理的配慮について話し合い、確認を行うこととする。

事例を通じた成果と課題

成 果

○保護者や幼稚園、交流学級担任と連携した合理的配慮の決定

入学前に、保護者及び幼稚園と対象児童の様子についての情報交換を行った。その情報を基に、特別支援学級や交流学級における支援の方向性について交流学級担任と共通理解を図ることができ、対象児童の安定した小学校生活のスタートにつながった。また、入学後の様子を基に、保護者や交流学級担任と話し合いを重ねながら、合理的配慮の具体的な内容を決定することができた。

○注意を向けやすくなる合理的配慮の提供

対象児童は、周りの様子が気になると、交流学級担任の話を聞くことが難しい様子が見られた。そこで、座席を最前列にして、交流学級担任が話をする前に対象児童のそばで肩に触れたり、名前を呼んだりして話し始めるようにした。その結果、対象児童は交流学級担任の方を向いて話を聞くことができた。

○活動に主体的に取り組めるようにするための合理的配慮の提供

対象児童は、口頭だけの説明では理解が難しく、周りの友達の様子を見て活動に取り組んでいる様子が見られた。そこで実践授業では、学級全体に対して活動の進め方を提示する際に、口頭で示すだけでなく、実際に演示しながら説明した。対象児童に対しては、手順書と、学習用PCに活動の実際を動画で保存したものを準備して見せるようにした。対象児童は活動に取り組む前に手順書を読んだり、学習用PCの動画で活動の流れを何度も確認したりしながら、主体的に学習に参加することができた。

課 題

○特別支援学級担任と交流学級担任の間では、日々情報交換を行うことができている。一方で、学年や学校全体で、対象児童への関り方について共通理解する場を十分にもつことができなかった。他の職員に対して、ポイントを絞った情報提供を行い、共通理解を図る必要がある。

○入学後、交流学級での対象児童の座席は最前列に設けていた。しかし、電子黒板等の視覚的な情報から離れた座席では注意の持続が難しい様子が見られた。そこで、実践授業では、対象児童を電子黒板の前の座席にして、交流学級担任が電子黒板を操作しながら説明するようにした。その結果、対象児童は電子黒板や担任の方を見て授業に参加することができた。交流学級では、ほとんどの授業で電子黒板を使用しているため、座席は常に電子黒板に近い位置にする必要がある。

○学習用PCは主に特別支援学級の学習で使用していた。今後、交流学級担任と特別支援学級担任との連携を更に図り、交流学級の授業で効果的に使える場面を広げていく必要がある。

平成28年度 個別の教育支援計画 記入日H28年6月〇日

〇〇 小学校	〇〇学級 (1年〇組)	校長名	〇〇 〇〇	担任名	〇〇 〇〇
氏名			〇〇 〇〇		
保護者名			〇〇 〇〇		
住所			〇〇〇〇		
生 育 歴			<ul style="list-style-type: none"> ・自閉スペクトラム症の診断を受ける。 ・療育機関で言語訓練を受けている。 		
氏名			生年月日 平成 〇年 〇月 〇日		
家族構成			〇 〇 〇 〇		

現在の生活、将来の生活についての願い	
本人の 願い	<ul style="list-style-type: none"> ・学校で楽しく過ごしたい。
保護者 の願い	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活に慣れ、周りの友達と仲良くしてほしい。 ・学年相応の学力を身に付けてほしい。

本人の状況 (学習面・集団参加・社会性・対人関係・コミュニケーション、他)	
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・全体での話だけでは理解していないことがあり、周りの様子を見ながらその都度、大人が伝えるようにしている。 ・人の話を最後まで聞くことができずに、途中で独自に取り掛かり、周りと違うことをすることがある。 ・発音が不明瞭になることがある。 ・衣服の着脱、食事、排泄は自立している。外出先でのトイレに抵抗があり、大便時は限られた場所(自宅等)でしかできない。 ・臭いの強い食べ物が苦手である。 ・集団よりも一人遊びを大変好む。周りの人への関心が少ない。 ・環境の変化に敏感で、初めての場所や慣れない環境では不安になりうろろろすることが多い。
家 庭	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の特性について両親の理解は深い。 ・からくりの装置を自分なりに作ることが一番の楽しみになっている。
地域・関係 機関	<ul style="list-style-type: none"> ・言語訓練を受けている。 ・放課後デイサービスなどを利用している。
支援の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・周りの様子を見ながら、交流学級の活動に参加をすることができる。 ・学年相応の学習内容をおおむね理解することができる。

主な支援内容		支援者	
学 校	学級	<ul style="list-style-type: none"> ・自閉症・情緒障害学級では、国語、算数の学習を行っている。 ・<u>抽象的思考が苦手であるため、できるだけ具体物を操作したり、視覚的に理解できたりする教具を活用する。</u> ・<u>集団の中で話をする時には、近くに行き、肩を叩いたり、名前を呼んだりして話者への意識を向けさせるよう促す。</u> ・<u>交流学級では、モデルとなる人を教え、活動の様子を見たり聞いたりしながら活動を進めるよう促す。</u> 	担任 交流学級担任
	校内	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や言葉掛けを行う。 	全職員
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを利活用して学校での様子を保護者に伝える。 	家庭	
地域			
関係機関			

評価及び 引継ぎ事項	
---------------	--

【合理的配慮シート】

〇〇小学校 1年 〇組 氏名 〇〇 〇〇

長期目標

- ・活動内容を理解し、主体的に取り組むことができる。

提供する合理的配慮	評価
・座席は、最前列にする。 電子黒板と交流学級担任の両方の様子が対象児童からよく見える場所に座席を配置する。	変更
・全体に話を始める前に、個別に言葉を掛ける。	継続
・具体物や写真、イラストを用いて、活動の内容を示す。	継続
・交流学級の児童が対象児童と触れ合う活動を設定して、対象児童への理解啓発を進める。	継続
・学習用PCを用意する。 学習用PCを必要に応じて交流学級でも活用する。	変更

【提供する合理的配慮を決定した日】

H28年 7月 〇日 児童生徒名 〇〇 〇〇 保護者名 〇〇 〇〇

担任名 〇〇 〇〇 学校長名 〇〇 〇〇

次回の検討予定日 H28年 11月 〇日

H28年度 個別の指導計画（実態把握シート）

記入者名： ○○ ○○ 記入日： H28年 6月 ○日

(ふりがな) 氏名	○○ ○○	性別	○	校長名	○○ ○○
		学級	○○学級 (1年 ○組)	担任名	○○ ○○
生育歴：医療機関等からの情報（診断等）を含む		家族構成			
・自閉スペクトラム症		○ ○ ○ ○			
諸検査の結果					
・WISC-III 全検査IQ ○○(境界域)					
共通理解を図りたいことや 主な問題点		<ul style="list-style-type: none"> ・抽象的な話の理解が難しく、最後まで話を聞くことができない。 ・臭いに過敏なところがある。 			
	児童生徒の状況			現在の対応	
各教科等 授業 宿題 他	<ul style="list-style-type: none"> ・ひらがなの読みは、ほぼ身に付いている。 ・書くことにはまだ取り組んでいないが、半分程度のひらがなは正しく書くことができる。 ・数の大小は実際に数えながら比べている。具体物を用いることで、正解を導き出している。 			<ul style="list-style-type: none"> ・<u>体を動かしたり、具体物を操作したりしながら、体験的な理解を促している。</u> ・<u>指示を出す時には、目線を合わせたり言葉を掛けたりして、話し始めている。</u> 	
集団参加 社会性 休み時間 給食時間 集団活動 他	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉指導の中では、話者に意識を向けて話を聞くことができずにいる。 ・周りの友達の様子を見ながら、活動の内容や方法を知り取り組んでいる。 ・周りの友達から言葉を掛けられながら集団の中で生活を送っている。 			<ul style="list-style-type: none"> ・<u>交流学級では、できるだけ最前列に並ぶようにする。</u> ・<u>話をする際には言葉を掛けたり、体に触れたりして話し始めるようにしている。</u> 	
対人関係 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・交流学級では、周りの友達に自分から関わることは少なく、一人で過ごすこともある。 ・特別支援学級では、学級に在籍する他の友達と一緒に遊んだり、話したりして過ごしている。 ・指導者には、気兼ねなく話ができる。 			<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級での友達作りを優先している。 ・友達と一緒に遊べるように、相手への言葉掛けを促している。 	
興味・関心のあること	・からくりの装置を作ること。		苦手なこと	・臭いの強い食べ物。	
本人の願い	・楽しく学校生活を送りたい。		保護者の願い	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校生活に慣れ、みんなと活動してほしい。 ・学年相応の学力を身に付けてほしい。 	
支援にあたる者 (支援チーム)	特別支援学級担任、交流学級担任				